

2024年1月1日発行 通巻第314号

全科協

vol.54
NO.1

News

特集

博物館の周年事業



CONTENTS

P2 ●特集

P10 ●海外博物館事情

P12 ●1月2月の特別展等

P14 ●学芸員専門研修報告

P16 ●トピックス

JCSM

Japanese Council of Science Museums Newsletter

全国科学博物館協議会

〒110-8718

東京都台東区上野公園7-20 国立科学博物館内

TEL 03-5814-9863 FAX 03-5814-9899

<https://jcs.jp/>

博物館の周年事業

日頃の博物館活動を続けた節目となる周年は、職員だけでなく博物館を日頃から支えてくれた人々にとっても喜ばしいことである。博物館の周年事業で大変話題となったのは、2023年3月31日をもって終了した東京国立博物館創立150周年事業である。同館の取り組みを通して、博物館における周年事業の意義や効果について考える機会となったのではないだろうか。

周年事業の目的として一般的には、「支えてくれた人々に感謝を伝える」、「これまでの歴史を振り返り、これからの方針を打ち出す」、そして「ステークホルダーへのPR」という3点がある。イベントのいくつかを記念行事に置き換えるとしても、全体を通してのコンセプトを設定し、体制を整える必要があるため一定期間の準備、予算が必要となる。最終的なイベント規模に関わらず周年事業そのものを考えることは、博物館の歴史や理念、事業の意義を改めて考えるきっかけとなるであろう。

今号の特集では、周年事業における企画立案、準備期間や体制、広報から実施運営まで事例紹介いただくために、周年のことなる4館を取り上げる。昨年20周年を迎えた川口市立科学館からは、記念式典開催から続く様々な関連イベントの実施について取りまとめていただく。昨年30周年を迎えた所沢航空発祥記念館からは、記念ロゴマークの制作、特別展と映像上映を絡めてこれまでを振り返る取り組みを紹介いただく。2021年に開館を50周年を迎えたかわさき宙と緑の科学館からは、「宙も緑も市民とともに！」をキャッチフレーズに、コロナ禍で記念事業に取り組まれた様子について。大阪科学技術館は本年60周年を迎え、展示リニューアルも同時にお披露目となり、続く記念イベントの事例について紹介いただく。

これら各館での取り組みを参考とすることで、これから周年を迎える博物館にとって記念事業を考える一助となることを期待したい。

科学技術館 学芸員 西田 雅美

川口市立科学館の開館20周年記念事業について

川口市立科学館

学芸係 副主幹 中田 智博

1. はじめに

川口市立科学館(サイエンスワールド)は、太陽をメインテーマに置き、科学展示、プラネタリウム、天文台の3つの施設で構成され、それぞれの特色を活かし、体系立てて宇宙や科学の楽しさを学ぶことのできる参加体験型の施設として、平成15年5月3日さいたま新産業拠点SKIPシティ内にオープンしました。当館は「科学の原理や原則を教えるのではなく、観察や実験、創造、発表など自らの体験を通して、科学的なものの見方や考え方を深化させるものである」ということを基本方針とし事業を実施して参りました。おかげさまで令和5年5月に開館20周年を迎え、記念式典を実施するとともに、令和5年2月26日には、来館者200万人達成にあわせ、イベントを開催しました。以下、周年事業における準備期間や体制、実施内容についてご紹介いたします。

2. 周年行事までの流れ

開館19周年を迎えた時期から次年度に向けての構想を計画しました。20周年にあたる令和5年度は大きな節目を盛大に迎えたいことから、開館20周年記念式典の開催を計画し、外部講師による特別イベントや来館者への記念品配布の準備をすることとしました。外部講師の派遣依頼など予算が必要となるものは新たに財源の確保をいたしました。記念品については、当館のオリジナルグッズをはじめ、川口市のマスコッ

トキャラクター「きゅぼらん」グッズなどを記念品として配布しました。定期事業のものづくりについては、人気のコンテンツをブラッシュアップし、20周年Ver.として開催いたしました。その他、企画したイベントについても、所蔵品の展示や運営回数の拡充、市内の小中学校に通う児童生徒の作品の展示など、職員、インストラクターのアイデアや川口市、川口市教育委員会の協力によって実施できるものとししました。

3. 周年行事の取り組み

科学館では、5周年を1つの区切りに周年行事を開催しております。15周年では、ゴールデンウィーク期間の定期事業の拡充や外部講師を招いての特別イベントを開催しました。20周年にあたる令和5年度については川口市が市制施行90周年を迎え、科学館と共に大きな節目であることから、その機運を高められるような企画を進めることとしました。周年行事の目的としては、これまで長きにわたり科学館を利用していただいた来館者と共に20周年を迎え、感謝の気持ちを込めておもてなしをすること。科学館の定期事業について、より多くの来館者に知ってもらうこと。これまでの科学館の取り組みを振り返り、もう一度その感動を伝えるだけでなく、開館当初は子どもであった来館者が子育て世代となり、これからは世代をつなぎ、長く親しまれる未来の科学館を共に作っていききたい。そんな思いから生まれた20周年の企画をご紹介します。

4. 周年行事事業について

① 20周年ロゴの作成

科学館のメインテーマである「太陽」をモチーフに、20年間の歩みを力強く表すとともに、これからの未来を明るく照らすことができるように、20周年ロゴマークをデザインしました。また、外側のデザイン（プロミネンス）を漢字の「心」とすることで、これからも真心をもって皆様に愛される科学館であり続けたいと考えております。



② 開館20周年記念式典

開催日：令和5年4月29日（土）

開館20周年を記念して、科学展示室で記念式典を開催しました。式典には川口市長、川口市教育長をはじめ川口市のマスコットキャラクター「きゅぼらん」の参加。また令和5年2月26日（日）に来館者200万人を達成し、200万人達成者にも式典に参加いただきました。式典には200人以上が集まり、開館20周年の大きな節目を盛大に迎えることができました。式典後には、特別サイエンスショーやガラポン抽選会、「きゅぼらん」との記念撮影など、今日まで科学館を愛してくださった来館者の皆様のために特別イベントを開催し、開館20周年記念式典を最後までお楽しみいただける企画としました。

イベントスケジュール

開催時間	イベント内容
10:45	開館20周年記念式典会場の開場 (ガラポン抽選券の配布開始)
11:00	開館20周年記念式典 開会
11:01	川口市長挨拶
11:10	200万人達成者紹介
11:12	200万人達成者 記念品贈呈
11:15	開館20周年記念 くす玉開披
11:30	開館20周年記念 特別サイエンスショー
12:00	ガラポン抽選会開始



③ 開館20周年GW特別イベント「GWは科学館で1日たのしもう！」

開催日：令和5年4月30日（日）～ 令和5年5月7日（日）

※一部期間を除く。

科学館で行われている定期事業を1日で全て楽しめるイベントを開催しました。当館は土曜日に身の回りにある素材を使った工作教室「わくわくワーク」、科学館を探検してミッションのクリアを目指す「うきうき探検」。日曜日にはものづくり・実験・観察がセットになった「どきどきサイエンス」、親子で協力しながら科学への理解と興味を深める実験教室「にこにこ実験室」、身近に起こる現象を科学的な原理を交えながら一緒に考えていく「サイエンスショー」をそれぞれ数回ずつ開催しています。

普段は両日ともに来館しないと体験できないプログラムを1日にまとめることで、より多くの市民に科学館の事業を知ってもらい、科学館好きの子どもたちを増やす契機としました。

【開催スケジュールの例】

5月5日（金・祝）※うきうき探検はミッションが異なります。

開催時間	イベント内容
10:30	わくわくワーク 「20周年コマ」
11:00	にこにこ実験室 「電気を通す？通さない？」
11:30	うきうき探検 「探検シート ミッション1」
13:00	どきどきサイエンス 「20周年記念 サメの歯アクセサリー」
14:00	サイエンスショー 「-196℃...?」
14:30	うきうき探検 「探検シート ミッション2」

④ 特設コーナー「特別展20周年の旅」

開催日：令和5年4月29日（土）～ 令和5年5月14日（日）

科学館開館20年の歴史を振り返ることができる展示として、当時の特別展ポスターを一挙に掲示した特設コーナーを開設しました。過去に開催された特別展を懐かしむ来館者や全44種類の様々な企画の内容に多くの来館者が興味を持ち、科学館の歴史を感じてもらうことができた展示となりました。特設コーナーには、一部過去の特別展で使用した体験型展示物も設置し、低年齢のお子様も楽しめる空間を意識しました。また20年目の特別展「チョコレート展～カカオがとどける幸せな世界～」の広報ポスターを6月からの開催に先立って告知し、これからの科学館の歩みについても紹介する場としました。

⑤ 開館20周年記念「旧車運転体験」

開催日：令和5年8月26日（土）・27日（日）

科学館では鉄道模型（HOゲージ）を常設しており、マスターコントローラーによる手動運転の他、休日には5車両による演出運転をお楽しみいただいております。車両入れ換えのため、走行運転を引退した車両は、科学館の前身となる「川口市立児童文化センター」で活躍していた鉄道模型を含めて展示しています。今回は、過去に活躍してきた6台の旧車両の再整備を行い、運転体験が行えるイベントを開催しました。鉄道ファンが訪れる他、当時小学生だった来館者が大人になって自分のお子様を連れて遊びに来るなど、様々な形で旧車両の鉄道模型を懐かしむイベントとなりました。本イベントは今年度中にもう一度開催を予定しています。

⑥20周年記念事業「未来の科学館」絵画コンクール展

開催日:令和5年11月1日(水)～令和5年11月26日(日)

市内の小中学校に通う児童生徒を対象に、開館20周年を迎えた科学館に親しみを持たせるとともに科学への興味関心をさらに喚起させるため、「未来の科学館」をテーマに、自由な



発想・表現した絵画作品を募集しました。校内選考を経て全90作品が科学館に届き、どの作品も未来へ夢や希望、科学館への期待が込められて描かれていました。作品については館内選考を実施し、優秀賞には記念品と賞状、参加者全員に参加賞をお贈りしました。応募のあった作品をすべて展示し、科学館というかけがえのない場所を、来館者と共にある科学館として伝えることができた展示となりました。

5. おわりに

社会の変化を予測することが困難なこれからの時代において、当館が開館20年の節目を迎えることは、科学館の在り方を再確認し、科学館の必要性や新たな価値の創造を考える機会であると受け止めています。今後も、当館の活動が市民への理解を深められるように、また創造性豊かで元気な青少年の育成に向け、より一層の科学知識の普及や啓発に努めて参ります。

所沢航空発祥記念館 開館30周年記念事業の取り組み

所沢航空発祥記念館
運営グループ 小俣 美紅 山村 哲生
中村 潤 大野 力

1. はじめに

所沢航空発祥記念館が建つ埼玉県所沢市には、今から100年以上前の1911(明治44)年4月1日に臨時軍用気球研究会所沢試験場(所沢飛行場)が開設され、滑走路と格納庫、気象観測所を備えた日本で最初の飛行場が誕生した。同年4月5日には最初の飛行演習が行われ、徳川好敏大尉の操縦する「アンリ・ファルマン機」が高度10メートル、飛行距離800メートル、飛行時間1分20秒を記録し、これが我が国の飛行場で初の飛行となった。その後、初の国産軍用機「会式一号機」の開発をはじめ、航空機の設計・製作・試験、操縦及び機体整備を教える学校の創設等、日本の航空における先駆けの舞台となった。これらのことから所沢は「日本の航空発祥の地」と呼ばれている。

2. 所沢航空発祥記念館

我が国初の飛行場の跡地に造られた所沢航空記念公園内に、所沢航空発祥記念館は1993年4月3日、航空に関する科学技術や所沢飛行場に関する歴史的資料を総合的に展示する施設として埼玉県が建設、オープンし、2023年4月に開館30周年を迎えた。今日まで700万人以上の皆様に利用いただいた。ご利用いただいた皆様、ご協力いただいた関係者の皆様に心から感謝申し上げます。

当館には、展示館、大型映像館、レストラン、ショップ、研修室、会議室等の施設があり、近接して格納庫、西武新宿線「航空公園」駅前にはYS-11型機の屋外展示がある。展示館には、飛ぶ仕組みに係る実験装置、日本・世界の航空の始まりを紹介する展示、航空機やエンジンの実物、航空機の模擬操縦を体感できるシミュレータや所沢飛行場の歴史を紹介するメモリアルギャラリーなどがあり、楽しみながら航空にふれ、所沢飛行場の歴史について知ることができる。大型映像館では、航空に関連する作品等を1日に4回ほど上映し

ており、大画面で臨場感あふれる映像を楽しむことができる。2019年8月には、「アンリ・ファルマン機」の里帰り展示を実現し、2022年2月まで30万人を超える皆様にご覧いただいた。

3. 記念事業の目的

開館から30年がたち、現在、設備更新及び展示リニューアルの計画が埼玉県により進められ、2023年1月には展示リニューアル基本構想書が公表された。その中では、親子で楽しめる航空をテーマとした体験ふれあい施設をコンセプトにリニューアルが行われることが示された。この構想を念頭において、記念事業の目的は、「記念館・公園の利用者、近隣市民・県民、航空ファン、関係者、スタッフへ感謝の気持ちを伝えるとともに、更により良い関係を育むこと」、「記念館30年の歩みの振り返りと今後の記念館の未来を紹介すること」、「新しい取り組みとして航空機をテーマとした“ふれあい体験”を提供していく施設となることを紹介すること」の3点とした。

記念館の利用者等へは、当館 Web の周年サイトで次のメッセージをお伝えした。「これまでご来館いただいた多くの方へ感謝の意を伝えるとともに、これから多くの方に愛される記念館を目指して、開館30周年記念イベントを開催します。みなさまが過ごされた30年を振り返りながら、もう一度当館を訪れてみませんか?」と30周年を伝えるとともに、この機会にぜひ来館いただきたいことを伝えた。

4. 開館30周年記念事業の広報と記念ロゴ

記念事業の広報は、シンボルとなる記念ロゴマークの制作から始め、続いて2023年3月末に周年サイトの開設、建物外観へのターボリンと入口ガラス面にバナーを設置して、記念館・公園の利用者へ開館30周年をお知らせした。また、マスコミへプレスリリースの資料配布を行い広く告知した。なお、先行して大型映像館では2023年1月より、当館オリジナル映像作品「天までとどけ」「空をめざして」の上映にあわせ、開

館30周年オリジナルしおりのプレゼントを行い、告知をスタートしている。

記念ロゴは、当館のシンボリック存在である会式一号機（復元レプリカ）が、リボンをかたどった「3」を引き、雲をイメージした「0」をすり抜けるデザインとして、“未来へ進むこと”を表現した。このロゴは、広報活動において各種印刷物に利用するなど活用し、利用者や関係者の関心を引くことに繋げた。また、当館スタッフ全員が記念ロゴバッチを身に付けて一体感を生み、記念事業を盛り上げた。



未来へ進むことを表現した
記念ロゴ・ポスター

5. 記念特別展「30年を翔る」などの記念事業

記念事業の準備は、2022年度下半期から始め、2023年1月にはイベントのアイデアを出しあい、検討を更に進め、開催期間は4月から12月として具体的な計画を立案した。

記念事業は、まずは大型映像館で歴代上映作品の中で人気のあった映像作品などを再上映する「“おかえり”上映会」を4月1日から6月末まで開催し、続いて展示館では準備に時間を要する開館30周年記念特別展「30年を翔る」を7月末から開催することを中心にすえた。この特別展は、記念館の昔から今までがいっぱい詰まった展示で、例えば、1993年に開館してから現在に至るまでの30年を振り返るコーナーをはじめ、開館前の設計構想イラストの一部の特別公開、当館のシンボリック存在である「会式一号機（復元レプリカ）」や大型映像館オリジナル作品「天までとどけ」の開発秘話を紹介した。また、特別展と連動して大型映像館では、オリジナル作品「天までとどけ」「空をめざして」を7月末から8月上旬に上映し、特別展とあわせてお楽しみいただいた。



記念特別展「30年を翔る」

子どもから大人まで参加でき、楽しみながら30周年を知ってもらえるイベントとしてアニバーサリースタンプラリーを4月1日から開始した。記念ポストカードに展示館内を周りながら、オリジナルスタンプ「会式一号機」「YS-11型機」などを選んで押して、自分だけのポストカードをつくることができ好評であった。

既存のプログラムに記念のテイストを加えた事業としては、ワークショップ「記念ロゴ入り“のり付けひこうき”をつくろう」を7月1日から開始し、初日は「記念館30周年おめでとう」と掛け声とともに、ひこうきを飛ばして楽しんだ。

10月には開館30周年記念公開講座「会式一号機のつくり方」を開催し、復元当時の取り組みについて触れる機会とした。

ミュージアムショップでは、記念オリジナルグッズとして、記念ロゴバッチ、記念ロゴを入れたボールペン、30年間の特別展を10年ごとに一覧にしてデザインした3種類のTシャツ等を作り、開館30周年をアピールした。



アニバーサリースタンプラリー

6. 開館30周年・利用者からのメッセージ

記念特別展の思い出エメールコーナーでは、記念館での思い出や未来に向けたメッセージをオリジナルカードに書いてボード貼ることができた。いくつかのメッセージを紹介する。「30周年おめでとうございます。開館した頃からよく遊びに来ています。変わらない記念館が大好きです」「開館からずっとお世話になっています。子供も成人し、今日は夫婦で来ています。また、来ますね」「大人になり改めて訪れると感じるものがちがいますね。子供ができたなら一緒にこようと思います」「息子が大好きでもう何回目の来館になるのでしょうか。すてきな展示をありがとう」「ママの幼稚園の遠足で来た場所に、今は娘とよくあそびに来ています。いつまでも子供たちに優しい場所であってほしいです」「久しぶりに訪れました。思い出の場所なので、いつまでも飛行機の魅力を伝えてください」など2,700通以上（2023年11月現在）が貼られた。多くのメッセージに込められた皆様の気持ちを大切に、スタッフ一同、親しまれる記念館であり続けるよう努めていきます。

7. おわりに

航空により触れあえる機会として、記念事業の冠はつけていないが、ワークショップ、小学生を対象にしたキッズ・チャレンジ倶楽部教室、公開講座、特別展や記念館ボランティアと協働して、ひこうき工作教室、格納庫・屋外展示の公開、公園等と連携した「空フェス」イベントなどの教育事業・イベ

ントを開催している。10月にはレストランのリニューアル、大型映像館では新企画として航空に関連する人気作等の長編映画の上映会を7月より毎月1回開催して、新たな利用者の来館に繋げるなど、記念館をより魅力ある館となるよう、記念事業の目的を既存事業にも反映して様々な事業を推進している。

現在、展示リニューアルに向けて展示基本設計が進められ

ており、今後、当館の未来の姿を記念事業で関心を持たれていくこの期間に、広く紹介していきたい。

今後当館は、航空の歩み、空に関わる科学と技術、そして文化の視点から、航空機展示・科学体験展示・教育普及活動などを展開することで、空への興味・関心を喚起し、未来を支える人財の育成と航空のさらなる発展を志向してまいります。

宙（そら）も緑も市民とともに

川崎市青少年科学館（かわさき宙と緑の科学館）

指導主事 杉浦 孝弘

はじめに

神奈川県川崎市多摩区の生田緑地内に立地する「かわさき宙と緑の科学館（以下、「科学館」という。）」は、年間約25万人の市民が利用している（2019年度）。2021年8月に開館50周年を迎え、より多くの市民が楽しみ、科学館の価値を再確認できるよう、様々な記念事業に取り組んだ。

1971年8月15日、当時工業都市として高度経済成長期を支えた川崎市は、同時に公害のまちという一面もあり、川崎の子どもたちに「美しい星空を見せてあげたい」という市民の声を契機として、県内2番目のプラネタリウム施設として開館した（県内初は神奈川県立青少年センター）。1982年2月27日に展示室や収蔵庫を備えた本館が開館し、同年5月に市内唯一の自然科学系の登録博物館となった。2012年4月28日、世界最高水準のプラネタリウム設備と一新された常設展示設備等を備えた自然学習棟、調査研究や資料収集等の設備を備えた研究管理棟から成る「かわさき宙と緑の科学館」としてリニューアルオープンした。これらの設備や生田緑地の自然環境等を活用しながら、自然・天文・科学の3分野において、資料の収集・保存、調査・研究、教育普及活動に取り組んでいる。

50年の節目を迎えた科学館は、基本理念を「市民とあゆむ宙（そら）と緑の科学館」として、市民との協働、学校教育との連携等、市民に開かれた博物館として様々な年代やニーズに対応した事業やイベントを実施している。



記念事業の実際

2021年度を開館50周年記念イヤーと位置づけ、子どもたちから成人・シニア世代までそれぞれのニーズに応える記念事業を実施した。

1 プラネタリウム・フュージョン新番組「過去と未来への旅」

科学館の主要コンテンツであるプラネタリウムでは、学習投影を除く利用者（一般投影）は、2018年度84,394名、2019年度73,651名、緊急事態宣言に伴う2ヶ月間の臨時休館があった2020年度も定員を半数以下に制限する中34,651名の市民が利用した。プラネタリウム投影の中には子ども向け投影、一般投影の他に「フュージョン投影」がある。プラネタリウム投影機「MEGASTAR-Ⅲ FUSION」の性能を生かしたプログラムで、高画質の動画と精緻な星空投影を融合させ、風景にとけこむ自然な星空をリアルに再現する番組である。毎月限定公開していたフュージョン投影は利用者に高い人気があり、投影回は常に満席となっていた。

50周年の節目に、「MEGASTAR-Ⅲ FUSION」の性能を活かしたフュージョン新番組「過去と未来への旅」を制作し、2021年4月29日から公開した。以前は月に2回公開していたフュージョン番組を毎週土日と祝日に1回投影するなど、回数を増やして投影スケジュールを再編成した。毎回の投影利用が満席になることから、利用者のニーズが高いことがうかがえ、プラネタリウムをはじめとする天文事業に対する市民の期待の大きさを確かめることができた。

2 記念写真展

科学館の開館当時から今日までのあゆみに関する写真展を開催し、来館する市民に節目の年度であることの周知を図った。企画展示専用のスペースを持たない科学館では、多くの利用者の目に留まるプラネタリウムドーム壁面で写真パネルを掲示した。50周年記念式典の前後であり、年間で来館者が最も多い学校の夏季休業期間を含む6～8月に開催した。

3 開館50周年記念式典

開館以来、科学館運営にご尽力いただいた来賓、地域、市民団体、学校関係者の方々を招待して、これまでのあゆみを振り返り、科学館の魅力を多くの市民に発信するため、記念式典を7月17日に開催した。記念式典は、科学館の特徴を活かすことをねらい、2部構成にて展開した。第1部では、市長をはじめとする主催者と来賓の方々、総勢58名に参加いただき、挨拶や来賓紹介等のセレモニーとして実施した。第2部では、会場を科学館の学習室からプラネタリウムドームに移し、式典当日から公開した50周年記念番組「かわさきの星空50年」と、前述のフュージョン新番組「過去と未来への旅」を投影した。川崎市出身のプラネタリウムクリエイターである大平貴之氏が開発した「MEGASTAR-Ⅲ FUSION」は科学館の事業の核となり、多くの市民に好評である。プラネタ

リウム館としてスタートした科学館の魅力を改めて知っていただく機会とした。



4 プラネタリウム50周年記念番組「かわさきの星空50年」

科学館の主要事業であるプラネタリウム投影では、開館以来、科学館職員が時事の天文現象などを盛り込み、毎月の投影番組を構成し、常時生解説にて投影する「川崎方式」を実施してきた。川崎市と科学館の50年のあゆみを当時の天文現象や天文学の発展を織り交ぜながら紹介する記念番組を制作し、記念式典を開催した7月17日から一般公開を開始した。記念式典での投影を皮切りに、多くの市民が利用する夏季休業期間である8月末まで公開した。



5 記念企画展「川崎の生きもの」

自然分野の市民協働として、これまでに特定非営利活動法人「かわさき自然調査団」との調査研究で確認された動植物を紹介する刊行物「川崎の生きもの」を発刊した。企画展では、刊行物と連動して、市域で確認された動植物や絶滅危惧の生物についてパネルや標本を展示し紹介した。多くの市民が市域の自然環境を知る機会として夏季休業期間に開催した。夏季開催期間24日間で延べ5,215人が見学した。来館者からは「市内に絶滅危惧種が息していることを知った」「生き物にできることを家族で話題にした」という感想があった。企画展示の専用スペースを持たない科学館だが、市域の生物について来館者の興味関心を引く企画展になるよう開催した。

6 記念科学講演会

自然科学の魅力の発信をねらい、市在住の静岡大学名誉教授・吉村仁氏による数理生態学をテーマとした記念講演「素数ゼミの謎を科学する」を11月に開催した。講演会後、参加

者のアンケートからは、「興味深い話で、勉強になった」「数学と生物が関係した話で、奥深かった」等の感想を多数頂いた。当時は、イベント開催時の定員や規模に制限をかけながら開催していたが、講演会後の意見から「機会があれば、積極的に学びたい」という生涯学習に対する市民の関心の高さを確かめることができた。

7 科学イベント

「科学であそぼう！かわさきぶりんフェスティバル」

日頃から科学分野の教育普及事業を支える市民ボランティアとの協働イベントを開催した。普段、週末に開催している科学実験教室「サイエンス教室」や初歩的講座として位置付けて簡単な科学工作等を体験できる「サイエンスワークショップ」には、多くの子どもたちが参加している。日頃から科学館を利用する機会の多い層である児童と保護者、そして、事業やイベントを支えている市民ボランティアとの交流をねらい、サイエンスフェスティバルを開催した。イベント名には親しみやすさを持たせるため、科学館キャラクター「かわさきぶりん」を付けた。定員人数を制限したことにより、イベント規模は大きくないが、当日は約180名の小学生親子が市民ボランティアや科学館職員と交流しながら科学工作を体験した。

おわりに

自然・天文・科学の各分野においては、様々な年代・ニーズに対応できるよう、次の視点を大切にしながら年間を通して複数の記念事業を展開した。

1 日頃から科学館を利用する市民のニーズに応える

プラネタリウムや様々な実験教室を楽しみに、リピーターになっている利用者に人気の高い事業を重点的に実施することでニーズに応えた。

2 科学館を現在まで支え、交流してきた市民ボランティアや市民団体と協働する

市民ボランティアは、自然・天文・科学の各分野の事業を協働で進めたり、講師として利用者との交流や学び合いを導いたり、科学館に欠かせない存在である。記念式典で50年のあゆみを振り返り、様々な事業を協働で行うことで、市民協働の重要性を確認した。

3 科学館の価値や魅力を発信し、初めて利用する市民を増やす

50年という大きな節目を迎え、広く市民に広報することで、新たな利用者の増加を狙った。プラネタリウム新番組やイベントを利用した市民に、科学館事業や他のイベントの周知を図った。一つのイベントをきっかけに次の事業利用へとつなげた。50周年事業を通じて、社会教育施設として歩んできた50年は、多くの市民に支えられた時間であったことを、館職員一同が実感できた。ここで知り得た市民のニーズの実際や、市民協働の重要性は、これからの10年に向けて科学館がめざすべき方向性や取組を示す「第2期川崎市青少年科学館運営基本計画」に反映し、2022年度に策定したことを合わせて報告する。

1. はじめに

大阪科学技術館は1963年8月に開館し、2023年に60周年を迎えた。施設は大阪市内の中心にある都会のオアシスとしても有名な「靱（うづば）公園」の北東角に位置し、大阪経済の父として有名な五代友厚公の邸宅跡に建つ大阪科学技術センタービルの1～2階が展示施設となっている。開館以来、常に最新の科学技術・産業技術を



大阪科学技術館 外観

展示公開し、青少年をはじめ一般市民の方など、延べ約1,300万人にご来館頂いている。現在、19社7団体の協力の下、マテリアル・ニューライフ・アース・コミュニケーション・エネルギーの5つの分野毎にテーマ分けを行い、科学技術・産業技術が我々の生活の中でどのように活かされ、また支えられているかについて、ハンズオン型の展示などを活用し、ゲーム感覚で学べる体験参加型の科学館である。

2. 改装に向けての取り組み

大阪科学技術館の特長の1つとして、来館される方に常に新しい科学技術・産業技術を学んで頂くべく、2年に1度、展示改装期間を設けている。しかしながら、ご承知の通り2020年に世界中でパンデミック化した「新型コロナウイルス感染症」の影響により、社会の在り方、生活スタイル、そして更なるデジタル化への加速など、社会全体にとって大きな変換期となったことは記憶に新しい。

大阪科学技術館でも、本来の改装年でもあった2021年度についての展示改装は見送らざるを得ない状況となったが、この機会に改めて新しい社会に対応した大阪科学技術館の在り方や存在意義などについて、2023年度の展示改装をゴールと定め、2020年度からの3年間を費やし、出展機関と事務局によるワーキンググループを立ち上げ、検討・審議を重ねた。

ワーキンググループでは、まずは大阪科学技術館の置かれている現状や今後のあるべき姿等について客観的に把握すべく、過去（数年間分）の来館者からのアンケート結果を分析し、また各出展者を個別訪問し、意見等をヒアリングし、SWOT分析に近い形で、まず大阪科学技術館の強み、弱み、機会、脅威の洗い出しを行い、各出展者との情報共有を図った。その上で、展示改装を行うにあたり、「コンセプト」「ターゲット層」「統一感」「展示手法」を明確化した。

3. 大阪科学技術館の向かうべき方向性とは

ワーキンググループでの議論の結果、大阪科学技術館のコ

ンセプトは、当館の強みでもある多種多様な産業技術・科学技術の展示を行い、科学技術・産業技術の果たす役割について理解を促進させることを目指すことを再確認した。特に「出展者（日本）の持つ技術力の高さやすごさ」「身の回りのどのような所で役に立っているのか」「将来どのようなことを実現する（役立たせる）為に研究を行っているのか」などについて、来館される方がより自分事として捉えてもらえるような展示展開を行うことで、他館との差別化を図り、出展者ならびに来館者の満足度アップを図ることとした。

ターゲット層については、現状として低年齢化の傾向ではあるが、産業技術の説明を理解する上で、ある程度の理解力が必要である。対象を小学校低学年以下にまで拡張した場合、仮に言葉や内容を咀嚼しても、どうしても理解するという面では厳しい。また、大人の方に関しても、必ずしも歳を重ねたからと言ってさまざまな分野の知識がある訳ではない点を鑑みると、従来通りの「小学校中学年～中学生」を対象にすることとした。

また、特にコロナ禍前は、関西も非常に多く海外からの来館者にお越しいただいており、各展示ブースについては可能な限り日本語・英語・中国語・韓国語の4か国語標記を依頼していた。一方で、多言語対応するがために、ブース内がどうしても文字だらけになってしまうなどの弊害もあり、今回の改装を行うにあたり、多言語標記についても検討が行われた。結論として、やはり1番は日本の青少年に日本の持つ科学技術・産業技術に知ってもらいたいというのが、各出展者の共通の認識であった。そこで、改装後のブースについては、基本的には日本語表記をベースに、タイトルや主たる内容についてのみ英語表記を行うこととした。なお、今後も見込まれる中国や韓国など海外からの来館者にも対応すべく、主に英語・中国語・韓国語については各ブースに多言語対応のQRコードを設置し、対応を行うことにした。

続いて、展示場の統一感であるが、当館の展示場は2フロアで展開しており、各出展者によって様々な手法で展示展開をしており、特にハード面では統一感を出すのが難しい。ワーキンググループでも、「さまざまなデザインや内容のブースがあるのが大阪科学技術館の特長でもあり、バラエティーに富んだ内容がある方が来館者にとって面白いと思う」「来館者も雑多なものから宝物を探すような感じで、「これは何だろう?」と思えるものが見つかる多様な展示であって良いのではないか」「“バラバラ感＝イメージが悪い”と感じるかもしれないが、多種多様なブースがあることで躍動感があり、見る楽しさを感じることが出来るのではないか」との意見もあり、当館ではあえてハード面での統一感は設けないこととなった。但し、ソフト面では、各ブースを5つのテーマ分けをし、学校団体等が見学時により各ブースの理解をしていただけるようなワークシートなど、共通部分で統一性を持たせる工夫も行った。

最後に展示手法だが、こちらはコロナ禍による大きな社会変化の影響もあり、リアルにこだわらず、バーチャルという選択肢もあるのではないかと、さまざまな議論が展開された。



■ 新設館

韓国ソウルに、ロボット人工知能科学館が開館（2024年12月）

2024年末の開館を目標に、韓国は首都ソウル（都市圏人口：2,600万人）のチャンドン駅近くに、「ロボット人工知能科学館」の建設が進められている。同館は、ソウル市が進めている大規模整備事業のひとつで、開館後はソウル市立博物館の分館として運営される。延べ面積が7,405㎡の新しい施設は、ロボット工学とロボット産業および人工知能に関する、知識と普及を目的としており、常設展示と企画・特別展示で、ロボットと生成AIの設計、製造と広がり紹介されることになっている。建物の設計は、イスタンブールに本社を置く、メーリケ・アルティニスク建築設計事務所。同時期に、隣にソウル写真美術館（ソウル市立博物館の分館）も開館する。

Robot & AI Museum. Seoul.

<https://www.donga.com/jp/article/all/20210521/2662948/1>

<https://www.smithsonianmag.com/smart-news/seoul-will-welcome-robot-science-museum-constructed-robots-180971546/>

<https://www.melikealtinisik.com/2-index/3290-seoul-robot-ai-museum/>

<https://thespaces.com/seouls-new-robotics-museum-will-build-itself/>

■ 閉館

全米モーターサイクル博物館が閉館（2023年9月）

2023年9月5日に、アイオワ州アナモサ（都市圏人口：5,500人）の全米モーターサイクル博物館が閉館した。同館は、オートバイ用のパーツの販売とカスタムバイクの受注製作で財をなした、ジョン・パーハム（1954-2017）によって設立され、多くのオートバイ愛好者やレーサーとカスタムバイクのビルダーに支えられてきた。しかし、長く続いてきた入館者減少による経営不振に、休館を強いたコロナ禍が追い打ちをかけた。300台以上からなるオートバイのコレクションは、アメリカをはじめ、欧州と日本の名車から構成されていたが、借金を返すための資金の捻出のために、すべてオークションにかけられた。

National Motorcycle Museum. Anamosa, Iowa.

<https://nationalmcmuseum.org/>

<https://www.kcrg.com/2023/01/30/it-was-very-hard-decision-national-motorcycle-museum-close-september/>

スウェーデンのボルボ博物館が閉館（2023年12月）

2023年12月20日に、スウェーデン第二の都市イエーテボリ（都市圏人口：108万人）のボルボ博物館が、2024年に「ボルボの世界」の完成するに伴い、発展的解消のかたちで閉館した。スウェーデンを代表するボルボ社の本社があり、同市のアレンドール工場内にあった同館（1995年開館）では、1927年の創業以来の同社における自動車づくりを中心とした歴史が紹介されてきた。

ボルボ博物館で常時見ることができた約100台の自動車や他の実物品の一部は、2024年4月に同市南部のカレベク地区に開館する複合施設「ボルボの世界」で展示されることになっている。なおボルボ博物館にあったボルボ社史室（Volvo Historiskt Arkiv）は、引き続き事業が継続され、ボルボ社の経営資料が、数多くの設計資料と製品の写真とともに保存され、引きつづき企業史料の研究者等に供されることになっている。

Volvo Museum. Göteborg.

World of Volvo. Göteborg.

<https://volvomuseum.com/>

<https://volvomuseum.com/world-of-volvo/>

■ 企画展・特別展

仏シティ科学産業博物館で、「群衆」をテーマにした企画展を開催中

パリ（都市圏人口：1,121万人）のシティ科学産業博物館で、「群衆」をテーマにした企画展が開催されている。同展では、人間社会で当たり前にある群衆が、そもそも何なのか、何がきっかけとなって群衆がわき起こるのかを明らかにしている。流体力学をはじめ、粒状物物理学、数学、認知科学、社会心理学などの科学分野からのアプローチで、群衆とは何かに肉薄している。会期：2022年10月18日～2024年1月7日。

Foules.

Cité des Sciences et de l'Industrie. Paris.

<https://www.cite-sciences.fr/fr/au-programme/expos-temporaires/foules>

米フロリダ州立自然史博物館で、「色鮮やかなハエトリグモ」展を開催

フロリダ州は、ゲインズビル（都市圏人口：34万人）のフロリダ州立大学のキャンパスにある、フロリダ州立自然史博物館（1891年設立）で、ハエトリグモを紹介した企画展「色鮮やかなハエトリグモたち」が開催されている。

同展では、主に北アメリカに生息するハエトリグモの生態を紹介するもので、色鮮やかな個体の拡大写真(コリン・ハットン撮影)で構成されている。紹介されているハエトリグモは、フィディプス・アドニをはじめ、フィディプス・イーニンシーグナリウス、フィディプス・トロ、フィディプス・ティレリ、ハプロナトゥス・アメリカヌス、ハプロナトゥス・カンプリデス、ハプロナトゥス・サンソニ、ハプロナトゥス・ピリスリックス、ハプロナトゥス・ブルネウスの9種。同展は、フロリダ州立大学のクモの研究者リサ・テイラー博士(昆虫学・線虫学研究室)の協力を得て、企画・制作された。会場では、テイラー博士が制作したハエトリグモの生態を記録した動画も上映されている。会期：2023年5月18日～2024年6月20日。Colorful Dancing Spiders.

Florida Museum of Natural History, Gainesville, Florida.
<https://www.floridamuseum.ufl.edu/exhibits/colorful-dancing-spiders/>
<https://www.floridamuseum.ufl.edu/pressroom/2023/05/18/colorful-dancing-spiders-exhibit/>
<https://spiderpalooza.wordpress.com/research/>
<https://www.colinhuttonphotography.com/spiders>

独ベルリンの子ども博物館で、気候変動を紹介した企画展を開催

ドイツの首都ベルリン(都市圏人口：615万人)にあるマッハミット子ども博物館で、「汗をかき、凍えるSchwitzen und Frieren」と題した企画展が開催されている。対象は、幼児から12歳までの子どもと、保護者と保育士、教師。同展の中で、子どもたちに「気候変動」がわかりやすく紹介されている。また「さまざまな気象現象」と、「汗をかくしくみ」「さまざまな感情がおこるしくみ」のテーマも用意されている。会期：2023年7月1日～2024年6月30日。

マッハミット子ども博物館(2003年8月30日開館)は、ツァイス・グロスプラネタリウムがある、旧東ベルリンのプレントラウアー・ベルク地区にあり、長く使われていなかったプロテスタントの教会堂を使って博物館活動を行っている。教会堂(旧エリヤ教会)の建物は、ベルリンにある合同福音教会(EKBO)の所有であるが、現在は75年の賃貸契約で、非営利組織の子ども博物館が借りている。外観は時計塔と教会堂の外壁を残しながら、礼拝堂の中は展示コーナーや子どもの活動コーナー、こども図書室、こども映画館として利用されている。また教会堂の裏庭は、子ども庭園に整備され、子どもたちによる花や野菜の栽培が行われている。

第二次世界大戦末期のベルリン攻防戦では最小限の被害を受けた教会堂(1910年竣工)は、旧東ドイツに属していた東ベルリン地区にあったことから、長く東独政権下であって信仰の場として長く使われることがなく、最

小限の修復を行って公的な市民交流センターや青少年活動センターとして使われていた。建物の老朽化が進み、ドイツが統一されたあとも老朽化が進んだが、所有者の合同福音教会の資金不足により、修復されることはなかった。2000年になってようやくベルリン市内で恒久的に使える施設を探していた、マッハミット子ども博物館との間で、長期賃貸契約が結ばれた。1990年のドイツ統一後にベルリン市によって歴史的建造物に指定された建物の修復整備費用は、ヨーロッパ連合(EU)からの助成と、団体・個人等からの寄付でまかなわれた。

Schwitzen und Frieren.

MACHmit! Museum für Kinder, Berlin.

<https://machmitmuseum.de/ausstellung-schwitzen-und-frieren/>



子ども博物館として使われている、ベルリンの旧エリヤ教会
"Front of ex-Elijah's Church, Berlin" by Bodo Kubrak in 2011 is licensed under CC0 1.0 Universal

米クランブック科学館で、ガリレオ・ガリレイ展を開催

ミシガン州は、デトロイト(都市圏人口：436万人)の郊外のブルームヒルズにある、クランブック科学館で、ガリレオ・ガリレイの生誕500周年を記念した特別展が開催されている。同展では、天文学者であり、数学者でもあったガリレオ・ガリレイの偉業を紹介したものである。展示品は、すべて伊フィレンツェのレオナルド・ダ・ビンチ博物館から借用された。会期：2023年10月1日～2024年6月2日。

Galileo.

Cranbrook Institute of Science, Bloomfield Hills, Michigan.
<https://science.cranbrook.edu/explore/exhibits/galileo>

List of special
exhibition!

1月2月の特別展等

開催館	展覧会名	開催期間
釧路市こども遊学館	ジオ・フェスティバル	1月7日
	とり+かえっこ	2月17日～2月18日
岩手県立博物館	巡回展「ポケモン化石博物館」	2023年12月19日～3月3日
郡山市ふれあい科学館	スペースパーク企画展「色と光のふしぎ発見！」	2023年12月2日～1月8日
	ホワイエ企画展「宇宙の美しい天体たち」	2023年12月2日～1月8日
つくばエキスポセンター	企画展「すごいぞ！菌車！！くるくる回っていっぱいお仕事」	2023年11月18日～1月28日
ミュージアムパーク茨城県自然博物館	第88回企画展「地衣類 一木を、岩を、地面を彩る身近な生きもの」	2023年10月7日～1月21日
日立シビックセンター科学館 サクリエ	ミニ企画展示「土からわかる防災のおはなし」	2023年10月7日～1月21日
	科学館冬の特別イベント 新世界『透明標本』展	2023年11月18日～1月8日
	ミニ企画展示「Skill is Magic!『技能五輪』」	1月27日～4月7日
栃木県立博物館	テーマ展「ぼくらの自由研究～川の地形と石～」	2023年7月15日～3月3日
	テーマ展「巡回展 栃木の遺跡～最近の発掘調査から～」	2023年12月16日～2月4日
	昔のこと知ってっけ？～道具を知れば暮らしが見える～	2023年12月16日～3月31日
	テーマ展「栃木県版レッドリストが新しくなりました！～絶滅のおそれがある生きものと地形・地質～」	2023年4月15日～3月24日
	テーマ展「下野薬師寺と龍興寺～鑑真和上とゆかりのある名利～」	2月24日～3月31日
群馬県立自然史博物館	特別展「ぐんまの自然の『いま』を伝える」	1月20日～2月11日
川口市立科学館	せっかく来たから“さっかく”見ていく？～錯覚の科学を楽しもう！～	2023年12月9日～2月12日
科学技術館	第27回全国児童生徒地図優秀作品展	1月18日～1月22日
港区立みなと科学館	2023 冬の企画展「進化する!? 恐竜研究展」	2023年12月13日～1月30日
NHK 放送博物館	教育テレビからEテレへ NHK キャラクター展 人気者が大集合！	2023年10月17日～1月28日
国立科学博物館	特別展「和食 ～日本の自然、人々の知恵～」	2023年10月28日～2月25日
	企画展「第39回植物画コンクール入選作品展」	2023年12月19日～1月8日
	ミニ企画展「牧野富太郎と植物を観る眼」	2023年12月19日～1月8日
たばこと塩の博物館	見て楽し遊んで楽し 江戸のおもちゃ絵 Part2	2023年12月2日～1月28日
	たばこ屋大百科 あの店頭とその向こう側	2月17日～4月7日
東武博物館	企画展「東武鉄道 平成・令和の四半世紀【1999-2023】～根津嘉澄社長・会長の25年を振り返る～」	2023年11月1日～2月25日
郵政博物館	企画展「辰年年賀状展」	2023年12月7日～1月8日
多摩六都科学館	冬の特別イベント「ロクトロボットパーク」	2023年12月23日～1月8日
平塚市博物館	天象儀100年の軌跡	2023年10月21日～1月8日
	第23回博物館文化祭	2月3日～2月25日
富山県 立山カルデラ砂防博物館	写真展「素晴らしい自然を」	1月6日～2月4日
	収蔵品展「富山のいきもの」	2月10日～3月31日

※施設の一部を閉鎖している館園や、入館に際し予約を必要とする館園がございます。各館園のホームページをご確認ください。

開 催 館	展 覧 会 名	開 催 期 間
ふじのくに地球環境史 ミュージアム	イネ・米・田んぼ	2023年11月11日～3月24日
静岡科学館 る・く・る	企画展「ぼくらの世界を紡ぐ糸」	2023年12月23日～2月18日
碧南海浜水族館	受験応援水族館	1月2日～1月28日
	辰年企画「竜のすむ水族館」	1月2日～1月21日
名古屋市科学館	特別展「化石ハンター展」	2023年11月11日～2月18日
愛知学院大学歯学部 歯科資料展示室	特別展「生物発光と発光生物の世界」	2023年5月16日～3月29日
高槻市立自然博物館 (あくあびあ芥川)	鳥の羽根のふしぎ	2023年10月21日～1月21日
	企画展「楽器の生き物たち」	3月2日～5月19日
きしわだ自然資料館	令和5年度 きしわだ自然資料館特別展 動物のあし 一足元から知る生き物のくらし	2023年10月28日～1月8日
阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター	関東大震災 100 年。100 年前と今。都市における大災害に備えよう！	2023年9月1日～1月28日
	れきはくサテライトミュージアム 人と防災未来センター展 ～今はない、失われた風景～(仮)	2月6日～3月24日
伊丹市昆虫館	企画展「モズのはやにえりターンズ」	2023年10月25日～1月29日
	プチ展示「おうちの中の害虫」	2023年11月1日～3月25日
	プチ展示「チョウ温室のラン」	1月4日～1月15日
兵庫県立人と自然の博物館	妖怪と自然の博物展	2023年7月1日～1月8日
	但馬牛博物館×ひとくはコラボ展	2023年10月28日～1月8日
	写真展「植物シモバシラが魅せる氷の世界」	2023年11月28日～1月8日
明石市立天文科学館	2024 年全国カレンダー展	2023年12月9日～1月28日
	太陽系のお天気展	2月3日～4月7日
島根県立三瓶自然館	冬の企画展 第44回 SSP 展 自然を楽しむ科学の眼	2023年12月23日～1月28日
倉敷市立自然史博物館	特別陳列「みんなの動物ラボ・脊椎動物グループ発足 11 周年『テン+ one 展』」	1月23日～4月6日
	貸出標本大展示会	2023年12月15日～1月16日
	特別陳列「畠田和一貝類コレクション展9 畠田和一が採集していた岡山県の絶滅危惧種5」	2023年10月14日～3月24日
	まちかど博物館ほか標本展示閲覧会	2023年12月15日～1月16日
笠岡市立カブトガニ博物館	特別陳列「Iron・Fossils」展	2月1日～4月7日
広島市健康づくりセンター 健康科学館	ウェル嘴ム! お口の健康づくり	2023年11月11日～3月10日
防府市青少年科学館	企画展「はかるがわかる展 ～“計る”と“測る”と“量る”～」	2023年10月28日～1月14日
	パネル展「はっぱ展～形にかくされた 生き方のヒミツ～」	1月27日～3月3日
徳島県立あすたむらんど 子ども科学館	特別企画「遊んで学ぶ!おもちゃ展」	1月1日～2月25日
佐川地質館	牧野博士と佐川の地質	2023年2月4日～3月24日
北九州市立自然史・歴史博物館	企画展「なつかしい道具展 ―暮らしと道具とわたしたち―」	2023年12月16日～3月31日
	特別展「博物館のお正月 2024 ～辰～」	2023年12月26日～2月18日
福岡市科学館	動画クリエイター展	2023年10月20日～1月8日
沖縄県立博物館・美術館	旧石器時代の人類 ―海を越えた最初の人々―	2023年12月12日～2月12日

※次号(3月号)に掲載の3月4月の特別展情報は1月15日(月)までにお寄せください。

学芸員専門研修アドバンスト・コースを開講しました!

国立科学博物館では、全国の自然科学系博物館等に勤務する学芸員等を対象に、一層の資質向上を目的として、資料の収集・保管、調査研究、展示・学習支援活動等について専門的、実践的な学びにつながる研修を行っています。

開催にあたっては、全国科学博物館協議会と当館が主催をしており、今年度は11月6日～9日の4日間行われ、全国から6館6名の方が参加されました。(協議会加盟館からは5館5名参加)

今年度は国立科学博物館 植物研究部の研究員が講師を務め、顕花植物・海藻・きのこ類の収蔵・管理に関する専門的な講義と実践、そして植物分類学や植物標本室についての情報交換を行いました。

また、最終日の研修では当館の植物研究部の研究員及び学習課の職員が講師を務め、植物を魅力的に展示する方法や、学習支援活動を通じたサイエンスコミュニケーションの実践と活用について研修を行いました。

〈参加者からのアンケート抜粋〉

「海藻標本の概要や作成法が示されるだけでなく、採集から押し葉作成までを体験的に実習させていただくことが出来てありがたかった。」

「植物標本の扱いについて、悩んでいる部分が多かったため、標本に使用する紙や薬剤、標本の保存、管理について、大変参考になった。」

「菌類の採集方法・記録の取り方・DNA用サンプルや標本の作り方と順序だてて教えていただいたことで、知識を整理しながら学ぶことがで

きました。」

「植物を用いた展示を行う際に誰もが悩むことを中心に据えてお話しいただいたので、非常にわかりやすく、当館でも何が入り入れられるか考えながらお話を伺うことができました。」

「施設の職員だけでなく、イベント運営などに関わってくださる外部の方々とのコミュニケーションやより良い普及事業の実施についてヒントをいただいた。」

ここを動かす空間をつくりあげるために。
調査・企画、デザイン・設計、制作・施工、運営

Tanseisha

空間創造のプロフェッショナル 株式会社 丹青社
〒108-8220 東京都港区港南1-2-70 品川シーズンテラス19F
TEL|03-6455-8100(代表) URL|www.tanseisha.co.jp
札幌・仙台・新潟・名古屋・京都・大阪・福岡・那覇・上海

TOKYO SCIENCE CO., LTD.

ミュージアム・ショップ向/教育用地学標本



地学標本/化石・鉱物・岩石
古生物/レプリカ・復元模型
恐竜復元モデル

◆常設ショールーム: 紀伊國屋書店・新宿本店1F TEL.03(3354)0131(代表)◆

Fossils, Minerals & Rocks

株式会社 東京サイエンス

TEL.03-3350-6725 FAX.03-3350-6745
http://www.tokyo-science.co.jp
E-mail:info@tokyo-science.co.jp
〒151-0051 渋谷区千駄ヶ谷5-8-2 イワオ・アネックスビル

Practical Specimens for Study of Earth Science

本研修は講義や実習、意見交換等を通じて、各館の活動の幅が広がり、活動の見直し・点検につながるような内容となっています。令和6年度は動物研究部による研修を予定しております。興味のある方は是非ご参加ください。

また、「学芸員専門研修アドバンスト・コース」とは別に、2024年の2月5日と6日に全国の学

芸員等を対象とした「オンライン学芸員専門研修」を実施する予定です。当館の地学研究部が講師を務め「アンモナイトの描き方、見つけ方」や「化石のクリーニング方法」、「標本の収蔵について」といった内容の研修をオンライン形式で行います。ご興味がございましたら、当館のホームページをご確認のうえ、お申込みください。



標本のマウント法に関する実習の様子



標本採集の様子



ハーバリウム内で標本の管理方法を見学する様子



サイエンスコミュニケーションに関する講義の様子

(国立科学博物館 学習課)



Giving Shape to Ideas

DYNAVISION-LED

LED DOME SYSTEM

革新的なテクノロジーを結集した
新しいLED映像システムで
リアルな臨場感と美しい映像体験を



コニカミノルタプラネタリウム 製品 検索 画像: コニカミノルタプラネタリウム 満天 NAGOYA

Panasonic

CONNECT

日本最大の隕石展示～マンドラビライン石～



神奈川県立生命の星・地球博物館HP
<https://nh.kanagawa-museum.jp/>

当館は、地球と生命・自然と人間がともに生きることをテーマとする自然史博物館です。常設展示室に入って真っ先に目に入るのが、地球誕生の謎を解く鍵のシンボルであるマンドラビライン石です。重量 2.5t の迫力ある見た目ですが、実はこの大きさでも衝突した隕石の一部で、現在までに見つかった破片の総重量は 24t にもなります。

実物の隕石として日本最大のこの隕石は、当館のさわれる展示の一つとして、開館からずっと皆様をお出迎えし続けています。



次回執筆者は、横須賀市自然・人文博物館 学芸員 柴田 健一郎さんです。

令和5年度第2回理事会・総会及び 第31回研究発表大会の開催

▶ と き：令和6年2月21日(水)・22日(木) ▶ ところ：滋賀県立琵琶湖博物館およびオンライン

2月に令和5年度第2回理事会・総会を開催します。1日目の理事会・総会では、来年度の事業計画および予算案等を協議いただきます。講演もごございますので、みなさまのご参加をお待ちしております。

2日目には第31回研究発表大会を開催します。今回は「コミュニティとともに活動する博物館」をテーマにポスター発表を含む27件の発表がごございます(ポスター発表は現地のみでご覧いただけます)。この機会を情報収集、情報発信の場として活用していただけますと幸いです。

それでは、みなさまとお会いできることを楽しみにしております。

※今後の社会情勢によっては、オンライン等による開催に変更する可能性があります。



全国科学博物館協議会

全科協ニュース編集委員

石浜佐栄子(神奈川県立生命の星・地球博物館主任学芸員)

井島 真知(ベルナール・ビュフェ美術館学芸員)

南部 靖幸(熊本博物館学芸員)

西田 雅美(公益財団法人日本科学技術振興財団
科学技術館運営部主査)

平田慎一郎(きしわだ自然資料館学芸員(特命参事))

弘田 澄人(川崎市青少年科学館(かわさき宙と緑の科学館)
天文担当係長)

田邊 玲奈(国立科学博物館展示開発・博物館連携グループ長)

全科協事務局

国立科学博物館

科学系博物館イノベーションセンター

(担当:中山・河田・堤)

TEL 03-5814-9863 FAX 03-5814-9899

info@jcs.jp

発行日 2024年1月1日

発行 全国科学博物館協議会 ©

〒110-8718

台東区上野公園7-20 国立科学博物館内

印刷 株式会社セイコー社